

# イベント参加者のコミュニティを作る

## 概要

「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクトでは、2021年度、3つの人材育成企画を実施した。プロジェクトがリサーチや実践を進めている「方法」や「ツール」を共有する、社会人向け講座「カルナラ・コレッジ'21」、六本木アートナイトをフィールドに、現代文化を体験し学ぶ、学生を対象としたワークショップ「Chit Chat Mapping」、そして、地域の文化を読み解くラーニング・ワークショップ「コレクティヴ・メモリー」だ。

これらの企画では、講座やワークショップの開催期間中に、プロジェクトと受講生の間で情報共有を行うための仕組み、そして、開催期間後にも、ゆるやかに受講生たちが繋がり、関心を共有しあうことができるような仕組みの導入を試みた。

## テクニカルノートと効果

### プロジェクトと受講生の間の連絡：Slack, Instagram, Notion

プロジェクトと受講生の間の連絡には、Slack <https://slack.com/intl/ja-jp/>、Instagram <https://www.instagram.com/>、Notion <https://www.notion.so/ja-jp/product> を使用した。

**Slack**：社会人向け講座「カルナラ・コレッジ」と学生向けワークショップ「Chit Chat Mapping」で使用

2020年以降、さまざまな企業でSlackをはじめとするビジネスチャットの導入が進んだことから、社会人向け講座ではスムースにコミュニケーションがとれた。一方で、学生はスマートフォンにインストールしていないケースが多く、連絡をとるのに時間がかかる場合もあった。

**Instagram**：学生向けワークショップで、Slackによる連絡を補うため、Instagramの鍵付きアカウントを開設した。ストーリー機能を使って、ワークショップ日程や課題のリマインドを行った。

**Notion**：「Chit Chat Mapping」、ラーニング・ワークショップ「コレクティヴ・メモリー」で使用。レクチャーのスライド、アーカイブ映像、フィールドワークの注意など、ワークショップに必要な資料を一ヵ所で確認できるポータルサイトと、ワークショップの各回を振り返り、感想や意見、質問などを記述してゆくReflective Notesのデータベースを組み合わせた設計とした。受講生からのReflective Notesには、チューターがコメントを書き込むほか、受講生同士でもリアクションをつけるよう促した。

### 受講生間のコミュニケーション：Instagram

受講生同士のコミュニケーションを促進するために、「Chit Chat Mapping」、「カルナラ・コレッジ」ではInstagramの鍵アカウントを開設した。公開アカウントではなく、鍵アカウントとすることで、「公に出したくはないが、このワークショップの仲間なら共有してもよい」という写真や記録を共有することができ、より親密な環境を作れるのではないかと考えた。鍵アカウントのログイン情報をワークショップで共有し、フィールドワーク中に撮った写真などを投稿してもらうほか、希望者には、Instagramの個人アカウントからワークショップのアカウントをフォローしてもらった。

「カルナラ・コレッジ」では、受講生に、投稿したいものがあればワークショップ終了後も投稿するように薦めた。数は必ずしも多くないが、ワークショップの終了後半年以上たった現在でも、ときどきに受講生からの投稿が見られ、参加者の間で「ゆるい」コミュニケーションが続いていると考えられる。コミュニティの維持のため、チューターも時々に、イベントの写真や街の風景を投稿している。

## 改善点

プロジェクトで使用した3つのツールのうち、Instagramはどの受講生もすんなりと使用することができたが、SlackとNotionは、個人のデジタル・スキルによっては使うのが難しく、消極的な利用に留まることがあった。

また、今回は、受講生への導入のしやすさ、使用時の利便性を優先して、既存のツールを組み合わせてコミュニケーションプラットフォームを設定した。しかし、この手法を続けていくと、特定のプラットフォームに非常に沢山のコンテンツを「預けている」状態になってしまふ。プロジェクトとして、コンテンツをどのようにアーカイブしていくか、またそれを利用性を損なわずにどのようにしていくか、今後検討したい。